

旭山〜大雪連峰と旭川の接点

ぷくぷく  shimomura

発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所
旭川市東旭川北1条5丁目9番8号
ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>
お問い合わせ・お申込みは... フリーダイヤル ☎ **0120-233746** 旭山シリーズ **31** H23.12. 3

その魅力と癒しの空間、歴史を探る シリーズ **31**

自然の営みに感謝...! 今年も出会いがありました

旭山は今、冬を迎えるための準備が整い、一面に枯れ葉の絨毯を敷き詰めて、来春活躍する山野草達をすっぱり抱きかかえています。北国の寒さを知り尽くし、数百万年の年月を生き抜いてきた彼らにとっては、至極当然な事なのでしょうね。高高百年にも満たない命を授けてもらっている私達が、今年は暑い寒いの言う人間様の騒ぎを、どう見ているのでしょうか。しかし、今年も出会った旭山の仲間達が見せた「自然の姿」に、何故か心洗われるのです。



クマゲラ (特別天然記念物)

まさか旭山にこの鳥が飛来しているとは、思ってもいませんでした。富良野の東大演習林や愛山溪の雲井が原で見えてはいましたが、人の往来が激しい旭山に来ているなんて、夢のようです。出会いは十月の下旬、旧スキー場跡からの尾根道を下っている午後3時頃の事です。特徴のある甲高い声が「キューン」と響き渡りました。続いてドラミングの音...! 立ち止まって樹間に目をやりました。一瞬、50メートル程先の老木にどんよりとした雲を横切るように「黒い影」が走りしました。大きさはカラスより少々小さく、頭の先が赤く見えました。両足でがっしりと老木をつかみ、木の幹に垂直に掴まっている姿は、間違いなくきつつきの仲間です。デジカメは全く役に立ちません。次の日も少し下がったところでほんの一瞬出会いました。本物であることを願って、会員の佐藤益士さん(旭山の草花を写している豊岡の会員)に連絡した所、11月の初旬に「撮ったよー」と映像が送られてきました。素晴らしい映像が、間違いなく特別天然記念物「くまげら」であることを証明しています。大雪の山並みから上川盆地に突き出た旭山、そこが自然の宝庫であることを、この「くまげら」が証明してくれました。非常に神経質で用心深いこのくまげら、何とかして静かにゆったりと生活できるように、守ってあげたいと思っています。どうぞ、皆様のご協力をお願いします。佐藤さん映像有難うございました。



ツルリンドウ (蔓竜胆=リンドウ科)

旭山散策路一面を落ち葉が覆う11月、崩落した南斜面に眩いばかりのルビーを思わせる「赤」が輝いていました。こんなに多くの実が、一か所に集合して競って生っているのは、今まで見たことがありません。おそらく数多くの実をつける条件が、整っていたのでしょう。チャコールグレー一色の晩秋にあって、去りゆく秋の名残を惜しむかのように結実した仲間達に、心から拍手を送ります。



シラネアオイ (白根葵=キンポウゲ科)

樹幹の笹藪を歩いている時、突然目の前に現れたピンクの貴婦人...? 本当に驚きました。源氏物語に出てくる「葵の方」を思わせる柔らかなピンクの花びら(実は花弁ではなくガク)が、際立ってグリーンに映えるのです。しかし、この花は、会員舟橋健さんの話によると、どうもここ旭山の自生種ではないようだとの事です。本来は栃木県白根山で発見された植物で、昭和37年代に造成した野草園に移植した種の名残で、細々とこの地で生き抜いてきているようです。



クモとセミ (蜘蛛と蟬)

男厄除けの坂を登りきった所で、一休みと足を止めたところ、バサバサと草を揺らす羽音が聞こえてきたので分け入って見ると、蜘蛛の糸に引っ掛った蟬が、逃れようともがいているところでした。勿論蜘蛛は、大急ぎで糸を繰り出し、獲物を逃すまいと必死です。一瞬「この憎き蜘蛛め!」と思ったのですが、止めました。子どもの頃から「蟬」は弱い生き物、「蜘蛛」は憎らしい生き物、と言う概念で教わってきた私達は、人間にとって都合のよい解釈をしていたにすぎなかったのではないかと、思ったからです。蜘蛛も蟬も生きる為に必死なんですね。さて、皆さんはこの場面に出合った時、どのように行動しますか。自然保護と言う言葉の深さを思い知らされました。



サルメンエビネ (猿面海老根=ラン科)

何度見てもサルの顔に似ているこの花、今年はよく見かけました。ランの仲間であるため、盗採されることが多く、人目に付く所にはありません。旭山の過去の調査誌の中にも、このランの名前は掲載されていません。猿の面をかぶったこのランは、一枝に5~8個程の花を付けます。下の方から順番に開花していく為、全部咲き終るまでに2~3週間を要します。動物園のお猿さんが、その表情で年齢区別できるように、サルメンエビネも皺が多くなって肌がカサカサになった花は、丁度老猿の顔とそっくりになります。先端に咲いた花は若猿よろしく、艶があり肌も健康色そのものです。生き物の世界は皆こうなんではないでしょうか。



チョウセンゴミシを植樹(会員の鈴木信夫さん寄贈)

巡礼の路4~15番お地藏さんの近辺によく見られた蔦植物「チョウセンゴミシ」が、笹刈りで見られなくなっていました。秋の散策会に鈴木さんが一株持ってきてくださり、展望台近くに移植しました。何とか育ってくれることを願っています。鈴木さん有難うございました。

希望に満ちた新年を願っています。

「光陰矢のごとし」今年も早いもので一年が終わってしまいました。東日本大震災、異常気象による水害等、自然の猛威に襲われた日本列島でした。震災で亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災されました方々が一歩でも前に進まれるよう心より願っております。

さて、私達の会が発行している「ぷくぷく=旭山-大雪連峰と旭川の接点」、今号で31号を終えました。投稿下さった方や写真を届けて下さった方、又、声を掛けて下さった読者の皆様に感謝申し上げます。来年も下村販売所のご支援で、継続発行することが出来るようになりました。下村販売所はじめ、スタッフの皆様にお礼を申し上げます。

会員、市民の方々に、旭山の情報を少しでも伝えられる様、来年に向かって努力していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。皆様、よいお年をお迎え下さい。

旭山を活かす市民の会 問合せ先

会の全体について(理事長)
中川 希一 (0166-36-1827)
事務局 長
野村 廣巳 (0166-36-3382)
山野草関係の情報
石井 征士 (0166-36-6667)